

時沢中谷遺跡

共同住宅建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

序

富士見村では、これまで主に県営ほ場整備事業に伴って南西部に位置する横室地区、米野地区、原之郷地区、あるいは南東部に位置する小暮地区、時沢地区などで発掘調査を行ってきました。しかし、近年では民間開発が活発化し、これに伴った発掘調査が増えています。特に、富士見村の南部、前橋市に接する原之郷地区や時沢地区では宅地開発が活発に行われており、今回の時沢中谷遺跡の調査も民間のアパート建設に伴って行われたものです。

時沢地区には数多くの遺跡がありますが、これまで東側の地域で調査が行われただけで、西半部に位置する時沢中谷遺跡周辺の状況はあまり分かっていません。現在その殆どが耕作などによって削平されていますが、遺跡の北側には時沢古墳群があったということが村誌等に記載されています。

発掘調査では平安時代の住居跡が検出され、縄文土器も出土しました。調査範囲が狭く、遺跡全体の状況は不明ですが、小さな調査を積み重ねていくことで、地域の歴史が徐々に解明されていくものと思われます。

最後になりましたが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきました新井忠氏ならびに関係者各位、さらに、調査に従事していただいた作業員の皆さんに心より謝意を表し、序といたします。

平成10年3月

富士見村教育委員会

教育長 浅井 多津男

例　　言

1. 本書は共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は群馬県勢多郡富士見村大字時沢字中谷2,309番地に所在する。
3. 調査期間は平成9年6月11日から平成9年6月25日である。整理作業は平成10年3月31日まで行った。
4. 発掘調査及び報告書刊行にかかる経費は、事業者である新井忠氏が負担した。
5. 発掘調査は富士見村教育委員会が実施した。調査体制は、教育長 浅井多津男、社会教育課長 品川良治、課長補佐 樋沢幹男、主査 羽鳥政彦（担当）である。
6. 本書の編集・執筆は羽鳥が行った。遺物実測、図版トレース・版組は船津かほるが行った。
7. 発掘調査に係る資料は一括して富士見村教育委員会で保管している。
8. 発掘調査参加者は以下のとおりである。

関口照子 奈良美江 船津かほる 本望充子

凡　　例

1. 遺構図方位記号は座標北を表している。
2. 採囲縮尺は以下のとおりである。
全体図 1／200 竪穴住居跡 1／60 遺物図版 1／3
3. 第1図は国土地理院発行1:25000地形図「渋川」を用いた。第2図は富士見村役場発行1:2500原形図を用いている。

目　　次

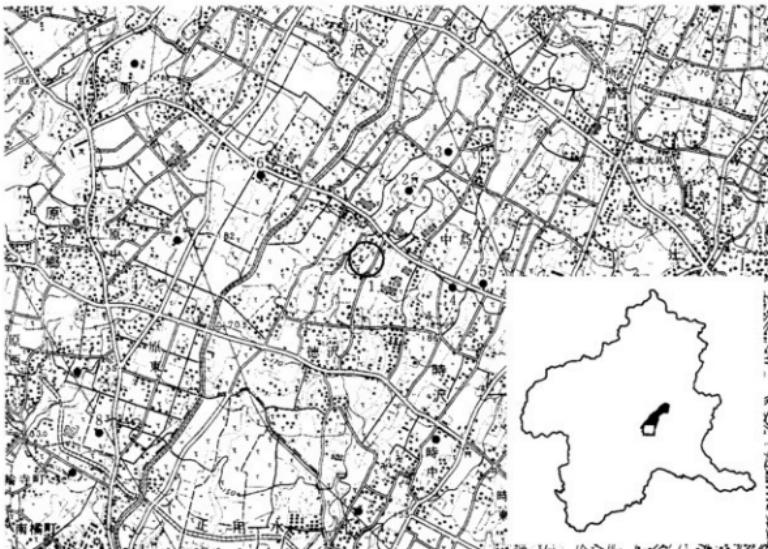
序文	例言	凡例	目次
I.	調査に至る経緯と調査の経過	1
II.	遺跡の位置と遺跡地の地形	1
III.	周辺の遺跡	2
IV.	土層堆積	3
V.	検出された遺構と遺物	4
VI.	ま　と　め	4
写真図版　抄録			

I. 調査に至る経緯と調査の経過

平成9年1月、開発協議審査委員会に新井忠氏より共同住宅の建設を行いたい旨の協議書が提出された。開発予定地周辺にはこれまで遺跡の存在は知られていなかったが、遺物散布調査を行ったところ、土器片、石器の散布が認められたため、審査会において、とりあえず試掘調査の必要がある旨意見を行った。同年2月、事業者より村教育委員会に調査依頼書が提出された。同月、試掘調査を行ったところ、平安時代と思われる遺構・遺物が検出された。この結果を受けて事業者と遺跡の保護について協議を行ったが、開発の意志が固いため、遺構・遺物が検出された部分を中心に、発掘調査を行い記録保存を図ることで合意に至った。発掘調査は6月11日に着手した。梅雨時期のため、実働日数は少なかったが、住居跡1軒だけの調査であったため、同月25日には終了した。

II. 遺跡の位置と遺跡地の地形

調査地は、富士見村の南端の東半部に前橋市と接して位置する時沢地区にある。大字時沢は広大な区域にまたがるため、さらに4つの行政区に分かれている。調査地は、このうち北西の一角を占める中島地区にある。富士見村役場の南東約1.7km、原小学校と時沢小学校を東西に結ぶ道路の南側に若干離れて位置する。津久田停車場・前橋線（通称石井県道）の東方約1.5km、主要地方道前橋・赤城線（通称：赤城県道）の西方約



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

0.9kmの距離にある。

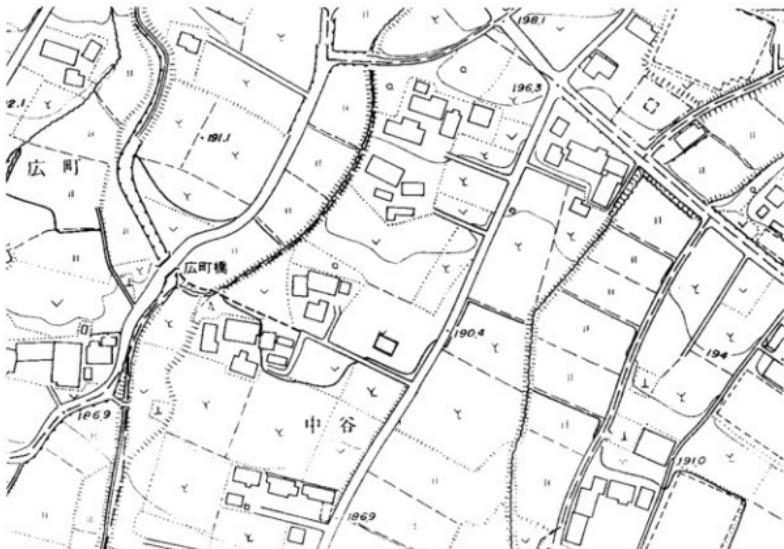
遺跡は赤城白川扇状地の中頃に位置する。遺跡地周辺では扇状地の開析がやや進み、比較的幅広で傾斜なり（北東から南西）に長い台地と、その間の低地（旧河川）が、比高差少なく樹枝状に連続している。調査地はこの低台地上に位置するが、東側には現在水田として利用されている比較的幅の広い低地が広がっている。台地西側の低地のほうが幅狭く、比高差が大きい。

遺跡地の乗る台地は調査地から南に約1.5kmまで続いている。遺物散布調査の結果、遺跡の中心は調査地よりも南にあると思われるが、40~50m前後の幅で続いている低地が遺跡地の東側では100m近くまで幅を広げていることがここに古地したことの一因と思われる。

III. 周辺の遺跡

富士見村では、富士見村誌編さんの際や、群馬県遺跡台帳作成の際に行われた遺物散布調査によって、ある程度は遺跡の分布状況が把握できるが、その後の土地改良事業に伴って行われた発掘調査でも明らかなるよう、これらの資料に未記載の遺跡が数多く存在し、諸開発事業の増加に効率的に対処するためにも、詳細散布調査を行う必要に迫られている。

富士見村誌には、調査地の北方から南西方にかけての現在の白川左岸の台地上には、約40基の小円墳からなる「時沢古墳群」があったと記載されているが、現在ではその大半が平夷され、わずか数基が認められるに過ぎない。包蔵地としては、本跡の乗る台地上で北東400mの字源訪（第1図2）、700mの字甚太夫（同図



第2図 周辺の地形

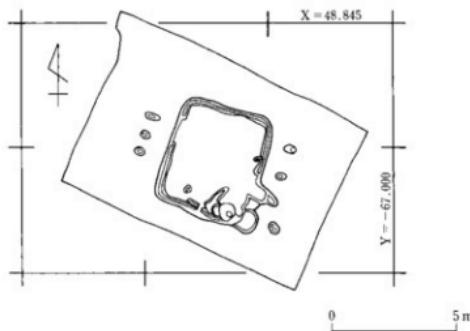
3) が縄文時代の包蔵地として記載されているが、本跡の南方から東方にかけての地域は広く無遺跡地帯となっている。

既調査地では、東方約400mには前年度調査を行った時沢痕遺跡（第1図4）があり、江戸時代の屋敷跡を検出している。そのすぐ東側150mには時沢庚東遺跡（同図5）があり、縄文時代前期後半の土器が出土している。北西約700mには今年度調査を行った小沢的場遺跡（同図6）があり、古墳時代の溝跡、平安時代の住居などを検出している。西方900mには原之郷鶴沢遺跡（同図7）があり、平安時代の集落を検出している。南西約1.6kmには平成7・8年度に調査を行った旭久保遺跡（同図8）がある。縄文時代中期前半～中葉を中心とする遺物包含層、古墳～平安時代の集落（堅穴住居跡約100軒、掘立柱建物跡約50棟等）を検出しており、本年度も古墳時代の住居跡1軒と中世の溝跡を調査している。

IV. 土層堆積

本村の一般的な土層堆積は、関東ローム層の上に黒ボク土、淡色黒ボク土、C軽石を含む黑色土、黒褐色土が堆積する（但し、黒ボク土の堆積は通常高標高の地帯のほうが厚い）が、低標高に位置する台地上は後世の耕作などにより堆積土層が激しく削平されていることが多い。

本調査地は赤城白川扇状地に位置している。この扇状地上にも様々な遺跡が展開しているが、地点によつて、離水年代が異なり、また、離水後に受けた自然の、あるいは耕作等の人为的な行為により、土層の堆積も様々である。本調査地の表土（耕作土）は、砂質の暗褐色土である。表土の下には薄い黒褐色土（C軽石・FP軽石を含む）が堆積し、その下にはC軽石を含む黑色土、C軽石をほとんど含まない黑色土が堆積する。その下は淡い黒ボク土からソフトローム層となるが、これ以下の堆積状況は掘り下げを行っていないため不明である。



第3図 時沢中谷遺跡全体図 ($S = 1/200$)

V. 検出された遺構と遺物

1号住居跡

東西3.8m、南北4.4m、深さ40~50cmを測り、南北に長い隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-19°-Eを測る。壁面は東壁・北壁は直であるが、他は若干角度をもって立ち上がる。南東隅の壁上には約90cmで、深さ15cm前後を測り、略半円形を呈する浅い土坑状の掘り込みが認められており、いわゆる棚状遺構の可能性がある。床面は平坦であるが、地形なりに若干南側に傾斜する。カマド前面から中央部にかけては非常によく踏み固められており堅緻である。西壁中央部とカマド部分を除き幅20cm前後、深さ5cm前後の浅い壁周溝が巡る。貯蔵穴は南東隅に付設されている。径約70cm、深さ35cmを測り、円形を呈する。なお、貯蔵穴の西側には幅20cm前後、長さ1.4m程度で弱い弧を描く、低い(5cm以下)高まりが認められており、貯蔵施設に関連する施設と思われる(土堤状遺構)。この西方には径30cm前後で不正円形を呈する浅い(5cm)ビットが検出されている。このビットから西側にかけての床面は焼土化しており、地床炉の可能性がある。カマドは東壁の南寄りに付設されており、燃焼部の大半が壁外に位置するタイプである。燃焼部が約80cm、煙道がさらに約45cm壁外へ張り出す。焚口の幅は約60cmを測る。燃焼部右側は灰褐色と黄褐色のローム粘土を用いて非常に堅固に構築されている。また、粘土内に袖石が残存する。掘り方調査の結果、ロームに覆われた壁面部分に柱穴状の掘り込みが認められたが、性格については不明である。

掘り方は壁面に沿って幅の広い周溝状に深く掘り込み、内部は掘り残している。また、床面中央部の北寄りには径約1m、深さ約5cmで円形を呈する土坑状の掘り込みが認められた。

遺物は土器の壺・壺、須恵器の壺・蓋、刀子などが出土しているが、大半は破片で余り残存状態はよくない。住居の時期は出土遺物から平安時代初頭と思われる。

柱 穴

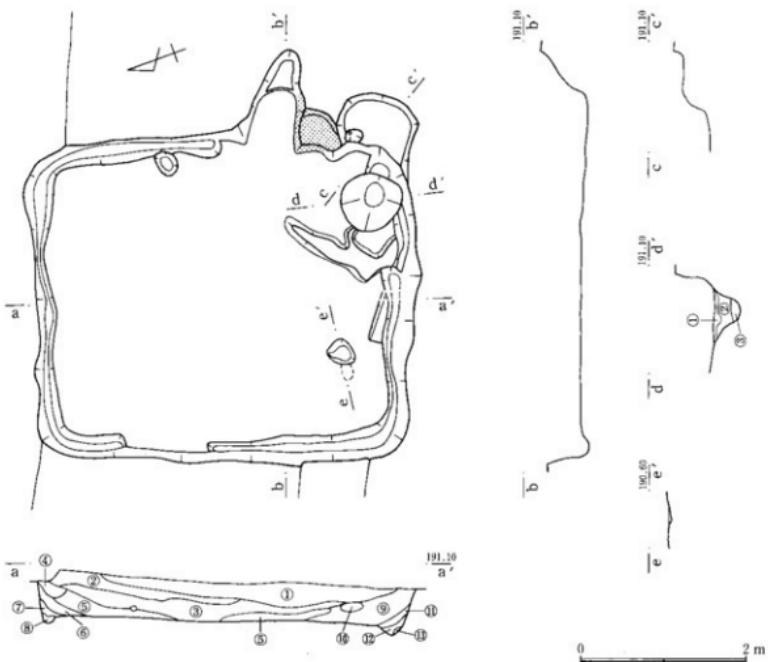
1号住居跡を挟んで東西に3基ずつ検出されている。掘り方の平面形状は梢円形を呈するものが多く、最大で長径60cm、短径30cmを測り、最小で径30cmの円形を呈する。深さは10~20cmとごく浅い。遺物はまったく出土していない。東西3基ずつの配置が1号住居跡の壁の方向に沿っていることから、1号住居跡に伴う可能性も考えられる。

遺構外出土遺物

小破片のため資料提示していないが、縄文時代前期中葉と思われる土器破片が数点出土しており、調査区城外には該期の遺構も存在していると思われる。

VI. ま と め

時沢中谷遺跡から検出された遺構は、平安時代初頭と思われる竪穴住居跡1軒と柱穴6基である。遺物散布調査の結果、遺跡の枢要部は調査地より南に存すると思われるが、明確な遺跡の範囲や遺構・遺物の時代・時期も不明である。III.周辺の遺跡でも述べたように、本遺跡の乗る台地と川一つ隔てた西側の台地には「時



1号住居跡 南北セクション

- ① 暗褐色土に褐色土多量に混入。C・F P軽石を多量に含む。
- ② 黒褐色土に褐色土混入。軽石多量に含む。
- ③ 暗褐色土と褐色土の混土。軽石は少ない。
- ④ 黑褐色土に褐色土。軽石は少ない。
- ⑤ 黑褐色土に褐色土。軽石は多い。
- ⑥ 褐色土と/or 褐色土。ロームブロック少量含む。
- ⑦ にぶい褐色土。
- ⑧ 褐色土。ローム粒多量に含む。
- ⑨ 褐色土主体。にぶい褐色土、ロームブロック、焼土ブロック各少量含む。
- ⑩ ⑨に黒褐色土。
- ⑪ にぶい褐色土と暗褐色土。
- ⑫ ⑪にローム小ブロック。
- ⑬ 黄褐色ローム。

1号住居跡 貯蔵穴セクション

- ① 暗褐色土。黒色土ブロック、焼土ブロック含む。
- C・F P軽石多量に含む。
- ② 褐色土。焼土少量含む。
- ③ 暗褐色土と褐色土。炭化物含む。

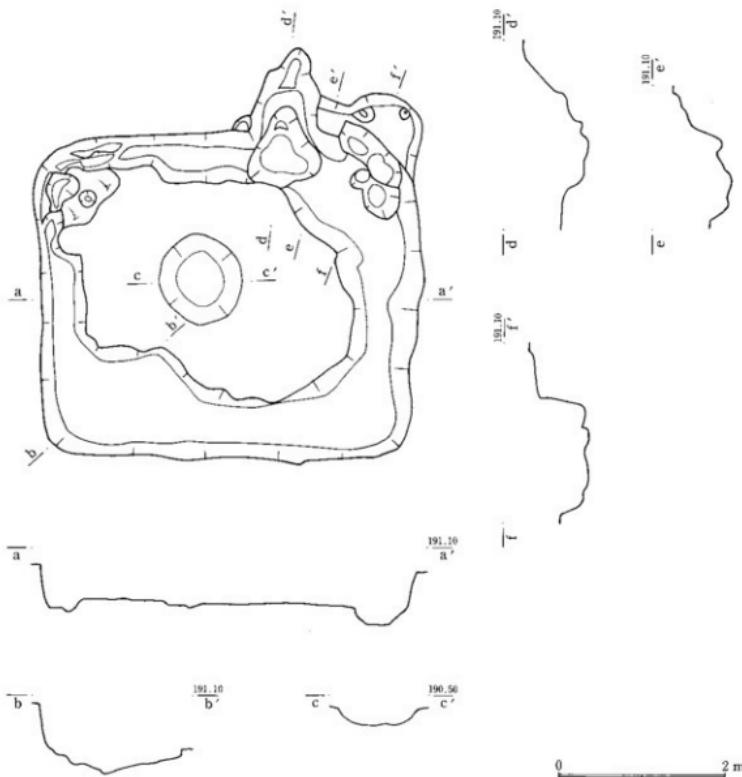
地床炉セクション

- ① 暗褐色土。炭化物多量、ローム・焼土少量含む。

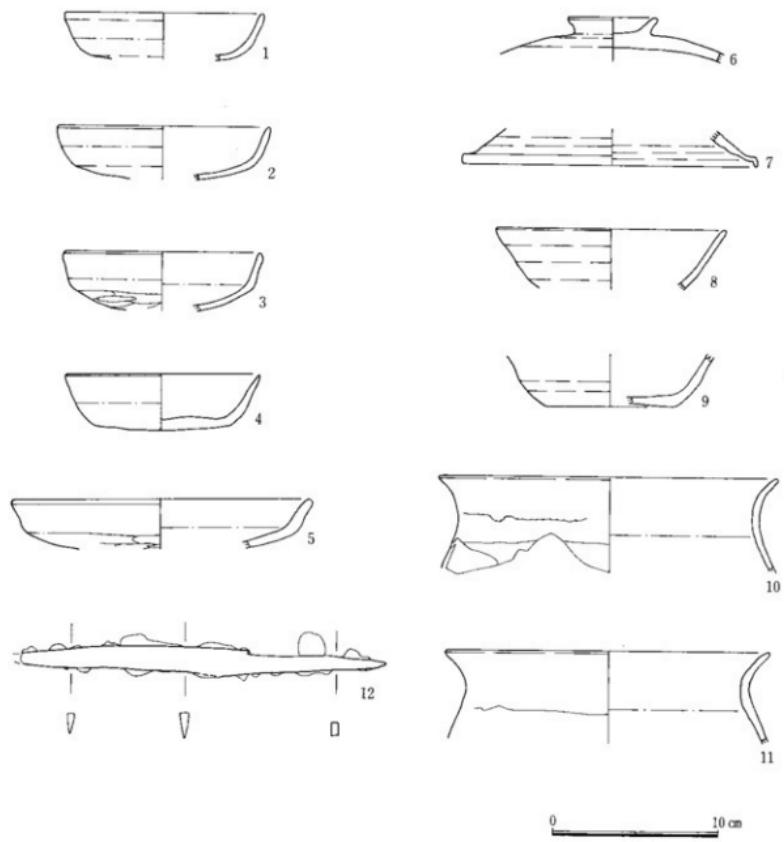
第4図 1号住居跡

沢古墳群」があり、富士見村の中では有数の古墳地帯である。しかし、本跡の乗る台地から東側の広い地域には、ほとんど周知された埋蔵文化財包蔵地がなかったと言つてよい。今回、発掘調査が行われ、実際に遺構・遺物が出土したこと、本跡以外にも埋蔵文化財包蔵地がこの地域に存在する可能性が大きくなつた。特に、今回の調査では平安時代の住居が検出されただけであるが、「時沢古墳群」を築造した人達が居住した集落遺跡がこの周辺に存在する事は確実であり(本跡にもその可能性がある)、墓域と居住域がどの様な理由で選定され、展開するか大いに興味のあるところである。もちろん、縄文時代前期の土器片は出土したが、古墳時代以前、あるいは奈良・平安時代以降の遺跡がどのように存在するかについても不明であり、今後の発掘調査等による資料の増加に待つしかないので現状である。

今後、再度時沢中谷遺跡の、あるいは、この周辺において発掘調査を行う機会があれば、いずれこれらの疑問に対する回答も得られるものと思われる。



第5図 1号住居跡掘り方



第6図 1号住居跡出土遺物

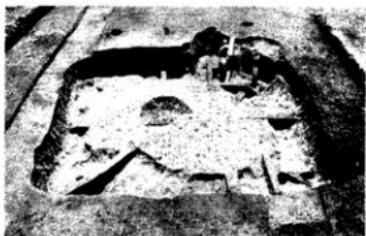
時沢中谷遺跡出土遺物観察表

1号住居跡

番号	種別 器種	出土位置 残存状況	法 楕(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備 考
1	坏 土 筋 器	フク土 破片	口:(11.9) 底:(8.6) 高:(2.9)	砂粒 において褐色	底部は平底気味。胎厚変化少ない。 内面から口縁部外面ヨコナヂ。体部外面ナヂ。底部外 面へラケズリ。	焼成良好
2	坏 土 筋 器	フク土 1/4	口: 12.7 底: 10.6 高: (3.2)	砂粒 褐色～黒色	底部は弱く丸みを帯びる。底～体部の境不明瞭。内面 から口縁部外面ヨコナヂ。体部外面ナヂ。底部外 面へラケズリ。	焼成良好
3	坏 土 筋 器	フク土 1/3	口: 12.0 底: 10.4 高: (3.5)	砂粒 橙色	底部は丸底状。底～体部の境は比較的明瞭。 内面から口縁部外面ヨコナヂ。体部外 面ナヂ。底部外 面へラケズリ。	焼成普通
4	坏 土 筋 器	電、床下土坑 4/5	口: 11.7 底: 8.1 高: 3.4	砂粒 橙色	底部は平底状。体部の立ち上がりは明瞭。 内面から口縁部外面ヨコナヂ。体部外 面ナヂ。底部外 面へラケズリ。 底部から口縁部にかけて胎厚が漸減する。	焼成不良
5	坏 土 筋 器	フク土 1/5	口:(17.8) 底:(16.0) 高:(3.0)	砂粒 橙色	口縁部は強く外反する。 内面から口縁部外面ヨコナヂ。底部外 面へラケズリ。	焼成良好
6	蓋 須恵器	南壁際床下 鉢部完存	紐: 5.4	粗砂 灰白色	天井部: 内面向転ナヂ、外面回転へラケズリ。 鉢部: 回転ナヂ。	焼成良好
7	蓋 須恵器	フク土 1/6	底:(17.8)	白色粒多、 黒色粒少 灰色	内外面とも回転ナヂ。歪み大きい。	焼成良好
8	坏 須恵器	フク土 1/4	口: 13.8	白色粒、黒色粒 褐灰色～灰白色	内外面とも回転ナヂ。歪み大きい。	焼成良好
9	坏 須恵器	フク土 1/5	底: (7.8)	黒色粒目立つ 褐灰色	底部: 回転糸切り後、周縁回転へラケズリ。他は回転 ナヂ。	焼成良好
10	要 土 筋 器	フク土 2/3	口: 20.3	砂粒 橙色～黒褐色	器壁の厚さ変化乏しい。 口縁部: 外面ヨコナヂ。胴部: 内面ナヂ、外 面へラ ケズリ。	焼成普通 外 面に付着
11	要 土 筋 器	フク土、床下 土坑 1/4	口: 19.5	砂粒 橙色	口縁部は強く外反する。口縁部下半は器壁厚い。口縁 部: 内面ヨコナヂ。胴部: 内面ナヂ、外 面へラ ケズリ。	焼成普通
12	刀 子 鐵 製 品	フク土上層 先端欠損	現存長21.8cm、刃部長13.5cm、柄部長8.3cm、最大幅1.7cm、厚さ0.6cm			



1. 1号住居跡（西から）



2. 1号住居跡掘り方（西から）



3. 同左（北から）



4. 棚状遺構（西から）



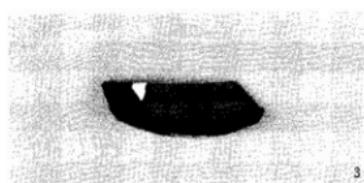
5. 南東部断ち割（南西から）



1. 1号住居跡遺物近接（北から）



2. 作業風景



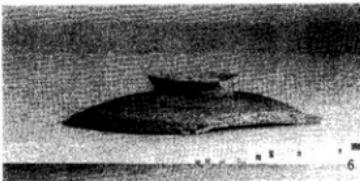
3.



4.



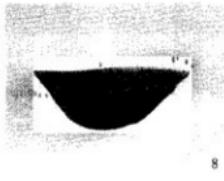
5.



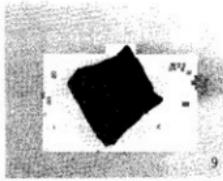
6.



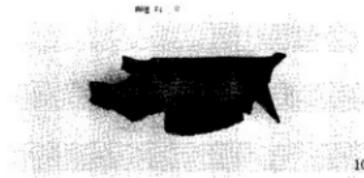
7.



8.



9.



10.



11.

1号住居跡出土遺物

発掘調査報告書抄録

フリガナ	トキザワナカヤイセキ
書名	時沢中谷遺跡
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	羽鳥 政彦
編集機関	群馬県勢多郡富士見村教育委員会
編集機関所在地	〒371-0114 群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1 ☎027-288-6111
発行年月日	西暦1998年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
					
トキザワナカヤ 時沢中谷遺跡	セイ デンジ ナカヤ 勢多郡富士見村 大字時沢字中谷	10303	36°26'16"	139°05'08"	19970611 19970625	74m ²	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
時沢中谷遺跡	集落	平安	住居跡 柱穴	1軒 6基	土師器、須恵器、刀 子

時沢中谷遺跡

共同住宅建設に伴う埋蔵
文化財発掘調査報告書

平成10年3月18日印刷

平成10年3月25日発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会
群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話 (027) 288-6111

印 刷／朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社